

年末の点火礼拝

日本基督教団の教会暦では、降誕節第1主日は一年間で最後の日曜日となります。そこで今回は、アドベントで用いた4本のろうそくを用いた、「年末の点火礼拝」を提案したいと思います。ここでは、礼拝の中心となる点火のプログラムのみを記しますので、賛美歌や主の祈り、派遣などのプログラムは、それぞれ別途ご用意ください。また、招詞とリタニーは、12月のものを用いていただければと思います。

●用意するもの

4本のろうそく、点火用の火がついているろうそく



●点火プログラム式文（例）

◆はじめのこたば

クリスマスを迎えた私たちの前には、アドベントの間に用いた4本のろうそくが置かれています。今日は1年で最後の日曜日です。この1年間の歩みを思い出しながら、「希望」「平和」「喜び」「愛」の4本のろうそくに、もう一度火をともし直しましょう。

①1本目のろうそく

〈導入の言葉〉

1本目は希望のろうそくです。希望のろうそくに火をともし直し、今年私たちに与えられた「出会い」を思い出しましょう。出会いは、私たちの歩みをより豊かにする希望だからです。

（教会での出会いを思い起こす。新しく教会に来た人や神さまとの出会いなどを振り返る。）

〈点火の言葉と祈り〉

希望はわたしたちを欺くことはありません。わたしたちに与えられた聖霊によって、神の愛がわたしたちの心に注がれているからです。（ローマ5・5）

主イエスの救いの光は、今、私たちに希望を生み出します。アーメン。（火をともし）

②2本目のろうそく

〈導入の言葉〉

2本目は平和のろうそくです。平和のろうそくに火をともし直し、今年私たちが経験した「別れ」を思い出しましょう。別れたあの人のもとにも、神さまが平和をくださることを信じ、私たちもまた平和の気持ちを受け取りましょう。

（教会での別れを思い起こす。CSを卒業した人、引っ越した人などを振り返る。）

〈点火の言葉と祈り〉

キリストはおいでになり、遠く離れているあなたがたにも、また、近くにいる人々にも、

平和の福音を告げ知らせられました。（エフェソ2・17）

主イエスの救いの光は、今、私たちに平和をあたえます。アーメン。（火をともし）

③3本目のろうそく

〈導入の言葉〉

3本目は喜びのろうそくです。喜びのろうそくに火をともし直し、私たちの教会（学校）の歩みを思い出しましょう。教会には神さまと出会う喜びが、誰かと交わる喜びが満ちています。そして今、ここにはクリスマスの喜びもあふれています。

（イースターやペンテコステ、キャンプやバザー、クリスマス行事などを振り返る。）

〈点火の言葉と祈り〉

これらのことを話したのは、わたしの喜びがあなたがたの内にあり、あなたがたの喜びが満たされるためである。（ヨハネ15・11）

主イエスの救いの光は、今、私たちに喜びを満たします。アーメン。（火をともし）

④4本目のろうそく

〈導入の言葉〉

4本目は愛のろうそくです。愛のろうそくに火をともし直し、神に愛されている私たち自身のことと思い出しましょう。うれしかったこと、くやしかったこと。楽しかったこと、悲しかったこと。いろいろあった一年でしょう。そのすべてに神さまの愛が注がれていたことを信じましょう。私がどれだけ弱くても、みっともなくても、神さまはそのままの私を愛してくださるからです。

（しばらく黙とうの時間とし、静かにそれぞれのことを振り返る。）

〈点火の言葉と祈り〉

神は、独り子を世にお遣わしになりました。その方によって、わたしたちが生きようになるためです。ここに、神の愛がわたしたちの内に示されました。（1ヨハネ4・9）

主イエスの救いの光は、今、私たちに愛を届けます。アーメン。（火をともし）

◆おわりの祈り

4本のろうそくに火がともされました。この光が、新しい一年も私たちと共にありますように。アーメン。

